

■ 巻頭論文

「安保三文書」に意図する軍拡・「戦争する国」づくり

——岸田政権の危うさ

憲法を踏みにじって戦争準備にひた走る岸田政権を許すな！
鈴木安蔵と日本国憲法を守る意義

清水 雅彦 5
小林 節 12
金子 勝 16

治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求める請願の22年度
紹介議員のみなさん——衆議院議員67議員・参議院議員42議員

22

● 情勢学習コーナー

「安保関連3文書」の危険なねらい——外交でこそ国民を守る

日本近現代史における軍拡・増税と今

川田 忠明 32
大日方純夫 40

安保三文書に立ち向かい、
平和への展望をひらく学びをどうつくるか

石山 久男 47

◆ 特別寄稿

五十嵐久彌と治安維持法——文学者の側面

高橋三枝子 55

◆ 文化・芸術

考古学者・戸沢充則の仕事

勅使河原彰 64

「レクイエム」宮沢賢治研究者の吉見正信さん逝く

澤田 勝雄 70

■ 小林多喜二没後90年

多喜二文学の世界への広がり

萩野富士夫 73

終焉の地、築地で初の多喜二祭——記念碑設置を見据えた活動へ

福田 和男 85

● 研究報告

山本宣治の顕彰について

藪田 秀雄 88

生物学者山宣は戦争にいかに向き合ったか

永島 民男 93

伊藤千代子と浅野晃

高田 直樹 97

——その「転向」・「非転向」を歴史的文脈の中で考える

藤田 廣登 103

伊藤千代子の前進——「女子学連」と尚綱グループの形成試論

◆ 世界と日本の戦争博物館

八重山平和祈念館・八重山戦争マラリア犠牲者慰霊の碑

田中 幹夫 112

● 大衆運動

「狗去猪來」——今、台湾二二八事件を問う

青山 恵昭 117